令和6年度前期 学群教育改善計画

学　群　名	基盤教育群
学 群 長 名	川島 滋和

1ー(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。		
①	課題	学生間の理解度のばらつきが大きいため、授業到達度の設定が難しい。
	理由	基礎統計学IIやコンピュータリテラシー等の正確な理解が求められる科目において、授業のレベル設定が難しい。同じ講義に対して、「難し過ぎる」と「簡単過ぎる」とのコメントが並存することもある。
②	課題	理解よりも暗記に頼る安易な勉強方法
	理由	教員は学生の理解が深まるように講義をしているが、一度聞いて理解できないと、そのまま暗記する学生が散見される。暗記に頼る学習方法はテスト対策にはなっても本質的な学びにはなっていない。
③	課題	授業改善計画の提出率は約83%となっており、授業評価の十分な検証が行われていない科目が少なからずある。
	理由	担当教員および責任者である群長の授業改善計画に対する認識不足

1ー(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。	
①	事後学修において練習問題を解かしたり、レポートを書かせたりして、教員は学生の理解が深まるように様々な工夫をこらしている。今後は、効果的な事前学修のやり方を基盤教育群で議論・共有し、講義前の事前知識のばらつきの軽減を図るとともに、暗記に頼らない効果的な学修方法を学生自らが考えれるような仕組みを検討する。
②	期末試験においては断片的な知識を問うのではなく、学んだことを統合化し表現できるように、試験問題そのものを改善していく。つまり、暗記では対応できないような試験、レポート課題等を増やすとともに、教科書や資料の持ち込みを可とする試験を実施し、暗記に頼らない本質的な学習方法を身につけてもらう。
③	群長および副群長より、未提出科目の責任教育に授業改善計画の目的を説明し、提出を指示する。また、スタートアップセミナーI　IIについては、学群ごとに結果の共有や改善計画が立てられるような仕組みを検討する。

2ー(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。
英語の多読、Xreadingの負担が多かったとの声があったが、担当教員間で話し合い、後期は、達成しやすく、かつ学習の継続性が確保できるようなゴール設定へと変更した。今後も学生の取り組み状況をみながら、学生の実態に即した課題設定となるように検討していきたい。
2ー(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。
教科書等をもとにした復習を事後学修として求めている科目は多いが、上記の科目のように、学生が達成感を得られたり、学習の継続性を考慮したりしているケースは少ないように思われる。事前、事後学修のモチベーションを課題やレポート等でどのように維持、高めていくのか、その方法論を議論・共有し、事前、事後学修の効果を高めていきたい。

令和6年度前期 学群教育改善計画

学　群　名	看護学群
学 群 長 名	菅原よしえ

1ー(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について 3 つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。		
①	課題	【継続】週当たりの授業外の学習（課題レポート・予習・復習など）の時間は 1 時間台の科目が多い。
	理由	他の科目と関連がある看護専門科目での、様々な資料を調べながら理解を深める学習方法が身についていない可能性が考えられる。また、1～3 年次生の必修科目は前期のみで約 20 単位であり、土日も含めて毎日 7.5 時間の学修時間となる。必修科目が多いことにより事前事後学修時間を確保しにくい状況がある。
②	課題	授業評価では、教材の適切さや分かりやすさの評価が低値であった科目の改善がみられた。学生にあわせた教材の検討の工夫は引き続き必要である。
	理由	R5 年の授業評価で、教材の適切さや分かりやすさの評価が極端に低値であった科目において、授業改善が図られた。しかし、学生が学習を促進する教材や授業の工夫は、継続が必要である。
③	課題	専門科目の記述意見で、授業内容が難しいとの意見が散見され、専門基礎科目および看護技術科目のアンケートでも難易度が高い傾向の回答となっている。
	理由	学生は、1～2 年次における専門科目に難しさを感じているが、繰り返しの学習やミニテスト等を取り入れた授業で到達に至っている。専門科目を初めて学び始めることへの取り組み意欲を促進することが必要である。

1ー(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。	
①	2025 年度に発表予定の「モデルコアカリキュラム改編」を参考に、カリキュラムの点検改編に取り組む。
②	引き続き、毎年度の授業評価のアンケートを活用して、改善に取り組む。
③	授業評価アンケート集計、授業改善計画等を教員間で共有し、各専門科目にて学生の学習への取り組みを促進する工夫を検討する。

2ー(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

・授業資料には、特に重要な箇所は赤など色をつけ、そこだけ字を大きくしている。さらに、ただの暗記にならないように「なぜ、どのように」などできるだけ必要最低限の情報で論理展開している。教科書だけでは「なぜ、どのように」などの情報が乏しいため、暗記のみで終わらせないような学習をするように注意を促す。

・単元ごとに実施する「小テスト」は、それぞれの要点が理解できているか確認することを目的とした取り組みであり、関係する看護技術各論演習Ⅲの学習とも関係していくことであるため、次年度も継続していく。

2ー(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

看護学群教員全員にメール配信および教授会にて共有し、各教員の授業計画や授業改善に活用する。

令和6年度前期 学群教育改善計画

学　群　名	事業構想学群
学 群 長 名	蒔苗 耕司

1ー(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について 3 つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。		
①	課題	今年度は、前任者の担当科目を専任教員が科目責任教員として引き継いで実施するケースが多かったことにより、教育の質保証および授業内容の継続性が懸念された。
	理由	複数の教員による異動に伴い、科目特性に応じた適切な非常勤講師を任用することで開講されているが、シラバス内容が引き継がれず科目の特性を十分に理解せずに開講されることが危惧される。
②	課題	これまでにも課題として挙げられているが、講義系の科目において事前・事後学習に費やす時間が全体的に少ない傾向にあり、科目による事前・事後学習における差が顕著であることが挙げられる。
	理由	講義系科目においては、授業時間外学習として課題レポートを課すなどで対応している科目が多い中、難易度や頻度が費やす時間の低下に繋がっている。さらにフィールドワークを有する科目では、ワークの設定方法に改善の余地があると思われる。
③	課題	講義形態ついては、対面、オンライン、オンデマンド授業と多様な教授法がある中、科目の特性や内容によっては遠隔授業などを併用することで就学の効率化、合理化が図られる可能性がある。
	理由	対面講義が本格的に復活し定着している中、大和キャンパスの立地上、天候や時期によって交通麻痺や混雑による遅延といった通学環境の悪化時における対応とともに、さまざまな教授法の併用により学習の深化が期待される。

1ー(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。	
①	事前に科目責任教員と非常勤講師との間で、シラバスに基づき科目の特性を十分に踏まえた綿密な打ち合わせを実施した上で開講するよう尽力してきたが、今後も十分に連携を両者の連携を図り、授業計画の立案を進めるよう教員相互の理解を図る。また、科目責任教員は適宜、非常勤講師からの相談の他、学生からの質問・問い合わせにも迅速に対応することで、非常勤講師の担当科目において学修効果の低下に繋がることがないよう密な連携のもと実施してきたが、今後も引き続き連携の強化を進めていく。また、科目の特性に応じてシラバスの範囲内で非常勤講師により実践的な経験に基づく内容が教授されているケースも存在しており、これらの科目についても連携の強化と内容の充実を進める。
②	フィールドワークの実施により、実地から得られた知見および体験を通じて学びを深化させるといった科目の体系化が進んでいる。授業時間外学習としてのワークの設定方法については適宜工夫・改善を行っており、引き続き効果的な教授法を模索する必要がある。また、学習内容の定着度向上に向けて、対面授業に加えて反転学習を取り入れた科目運営の必要性も高まっている。上記の学習方法を積極的に取り入れ、高品質で効果的な学修者本位に資する教育活動に注力していきたい。
③	今年度、オンライン授業のコンテンツと教科書教材の併用することで、履修学生の理解度について良好な結果が得られた科目が存在する。対面授業、オンライン授業などを併用し、在宅等のキャンパス以外の環境でも学習の効果効率が向上するような科目運営、登校・通学することによる学びの充実を図るなど、今後、科目の特性に応じた適切な教授法を見出し、大和キャンパス立地が学生にとって不利にならず、かつ有効活用ができるよう検討していきたい。

2ー(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。
非営利経営論（齊藤祐輔先生）本科目は、NPO 経営について分析するだけではなく、歴史や制度といった存在意義、営利企業との経営の差異について教授している。その中で、経営理論といった座学に加えて、後半の講義では「資金調達案設計」といった実務に即した内容についてグループワークとして取り組んでおり、理論と実践を兼ね備えた教授法を展開している。
2ー(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。
実学教育とは、実用的な知識やスキルの習得だけではなく、社会で役立ち貢献できる人材育成を目的としてしている。そのため、全ての科目において当該科目（分野）の社会的役割や学ぶ意義、社会での事例を交えた授業内容となるよう工夫・設計することで、受講生にとって学びの深化に繋がるよう十分な説明をするなどの改善に取り組んでいきたい。

令和6年度前期 学群教育改善計画

学　群　名	食産業学群
学 群 長 名	井上 達志

1ー(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について 3 つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。		
①	課題	教員による授業の展開やレポートやプレゼンテーションなど学生に対する課題に対して生成系 AI の適切な活用の方法
	理由	科目によってはグループワークの際の発想、調査、取り纏め、発表の一連のプロセスを PC（生成 AI）に任せて成果を得ている、との指摘があった。学修効果を高める生成 AI の利用法は大きな課題の一つと認識している。」
②	課題	同水準の試験問題にも関わらず直近の平均得点が過去最低レベルである、との指摘があった。特に深い考察を要する事象や複雑なプロセスを伴う現象についての理解力が低下している。
	理由	想像力、読解力や理解力の低下や、基礎学力の低下が背景にあると想像する。
③	課題	授業の事前・事後の学修量が少ない。また、そもそも学生がどれほどシラバスを利用しているか疑問が残る。
	理由	前者は恐らく全国的な傾向であり、教員側の問題として到達目標のレベルや課題の与え方があるが、学生側の問題として学ぶ意欲の問題もある。また、最終回の授業でシラバスを読んだかを訊ねても非常に少数の学生しか読んでいない。

1ー(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。	
①	AI を有効活用するとの抽象的な方針はあるが、授業や事前・事後学修において生成 AI をどのように使う（使いこなす）かは FD などを通して議論する必要があると思う。シラバスにおいてプレゼンテーションやレポートの課題では AI の活用を可とするか否かを示す必要がある。また、レポートの課題は自身で考えなければ書けないものを課す、としている授業も見られた。
②	学生の想像力、読解力や理解力や基礎学力については 2 極化する現象もみられており、どのレベルにおいて授業をするか悩ましい場面がある。これらを補完するためにリメディアル的科目が設けられているが、実際にはこれらの科目を履修すべき学生が履修していない実態も耳にしている。大学での学びの意欲や主体性のある高校生が受験し入学するような取り組みを強化してゆく。
③	学生の主体的な学びや学ぶ意欲をどう開発してゆくかは就活時に成績が不問であることなどから非常に難しい課題となっている。産業界で活躍している卒業生などより多くのゲストスピーカーを活用し、大学での学びの重要性なども理解してもらうことも有効かもしれない。

2ー(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。
「生成 AI の回答が講義を補足する情報を付与していたため、復習としての理解度向上につながった。講義の進捗とともに質問の質が向上しており、学生の意欲度が高まったものと推察された。このような生成 AI の活用は学習の質の向上に寄与するものと考え、継続して授業改善の取り組みとする」との授業実施・改善策の記述があり、生成系 AI の有効な利用の例があった。
2ー(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。
大学教育の現場においても AI の活用は当たり前のことになりつつある。良い活用例などを教員間でシェアするなど、研修の機会を設けるのも良いと思う。